

令和 3 年度

鹿児島市スポーツ少年団指導者・母集団研修会

< 調査報告 >



鹿児島市スポーツ少年団

鹿児島市スポーツ少年団指導者協議会

令和3年度

鹿児島市スポーツ少年団の重点事項

☆ スポーツ少年団員綱領及びスポーツ少年団指導者綱領に基づく団活動の実践

基本方針	1 団員の積極的な加入奨励と青少年健全育成 2 基本理念に則った望ましい団活動の展開 3 指導者・リーダーの養成と資質向上 4 組織の充実
------	--

1 団員の積極的な加入奨励と青少年健全育成

- (1) レインボー作戦の趣旨を理解した活動を推進する。
- (2) 積極的な団員の加入促進を図る。
- (3) スポーツ少年団への地域理解を得るための啓発・実践活動を展開する。
- (4) あいご会やPTA、町内会等との連携・協力による青少年健全育成地域活動を展開する。

最重点努力事項

2 基本理念に則った望ましい団活動の展開

- (1) スポーツ少年団の本旨に基づいた調和のとれた活動の推進
《7つの領域のバランスのとれた実践を推奨する。》

鹿児島市スポーツ少年団レインボー作戦の展開

○スポーツ活動	○野外活動	○体力テスト	○社会活動
○レクリエーション活動	○学習活動	○文化活動	

☆ 9月12日（日）【原則 9月第2日曜日】はブロック別交歓交流大会

☆ 12月19日（日）【原則 12月第3日曜日】は年末クリーン作戦

☆ 体力テストの実施と報告

- (2) 第3土曜日（青少年育成の日）、第3日曜日（家庭の日）の地域や家庭における活動推進
《地域活動を優先しよう。》
- (3) 適切な活動日数の推進 《1週間に2～3日の活動日数にしよう。》
- (4) 適切な活動時間の推進 《1日2時間以内の活動にしよう。》
- (5) 適切な活動時間帯の推進 《屋外は日没まで、屋内は午後7時までには活動を終了しよう。》
- (6) 対外試合の精選 《月1回程度に止め、無理のない計画を立てよう。》
- (7) 土・日曜日の団活動の適正化 《土曜授業の確認、学校行事や地域行事等を優先した計画を立てよう。》
- (8) 団員の自主的・主体的活動の推進
- (9) 団員の技能差による指導の軽重を避けた、団員一人一人の心に寄り添う平等な指導

過度な練習の自粛

3 指導者・リーダーの養成と資質向上

- (1) 活動現場における暴言・暴力行為等の根絶に努める。
- (2) スタートコーチ（スポーツ少年団）資格の意義の啓発とスタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会への参加推進を図る。
- (3) ブロック別指導者・母集団研修会、指導者研修会の内容充実と積極的参加の推進を図る。
- (4) 生涯スポーツ研究公開の充実と参加推進を図る。

4 組織の充実

- (1) ブロック協議会、校区連絡協議会、校区指導者協議会、単位団組織の円滑な組織運営と活性化を図る。
- (2) スポーツ少年団の基本理念に反する活動に対して、指導・助言等を行う指導連絡体制を機能させ団活動の適正化を図る。
- (3) 校区、ブロックレベルでの育成母集団組織の育成と充実を図る。
- (4) リーダー会入会の呼びかけの推進及び組織充実・拡充を図る。

<目次>

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3	調査結果	
(1)	鹿児島市スポーツ少年団の重点事項について・・・・・・・・	3
(2)	基本方針1「団員の積極的な加入奨励と青少年健全育成」について・・	4－7
(3)	基本方針2「基本理念に則った団活動の展開」について・・・・・・・・	8－12
(4)	基本方針3「指導者・リーダーの育成と資質向上」について・・・・・・・・	13－16
(5)	基本方針4「組織の充実」について・・・・・・・・・・・・・・・・	17－20
(6)	少年団活動における悩みや疑問等への回答・・・・・・・・	21－24
4	おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25

1 はじめに

鹿児島市スポーツ少年団関係者の皆様には、かねてから青少年の健全育成にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、昨年度から続いております新型コロナウイルスの全国的な感染拡大により、スポーツ少年団活動においても、多くの大会やイベント・研修会等を中止や延期、縮小開催の判断をせざるを得ない状況が続いております。

5月末から6月にかけて計画しておりました、「ブロック別指導者・母集団研修会」につきましても、例年の形式での開催を見送りとしたところでございます。そこで、団員の活動の場はもちろんのこと、指導者・母集団の研修の場を失わないためにも、鹿児島市スポーツ少年団指導部会にて協議のうえ、書面による調査・回答結果の報告という代替開催を決定いたしました。

回答いただきました各单位団の関係者の皆様、回答をまとめていただきました各ブロック長および各校区代表の皆様にご心より感謝申し上げます。

この結果をもとに、鹿児島市スポーツ少年団におきましても、スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化をはかり、青少年へのスポーツの振興・青少年の心身の健全な育成にさらに資してまいります。また、報告の中には、各单位団での取り組みや成功例等や各单位団における団活動についての悩みや疑問等への回答を記載しておりますので、各单位団での活動計画や運営・指導において、お役立ていただきますようよろしくお願いいたします。

鹿児島市スポーツ少年団の重点事項の「基本方針4 組織の充実」にも、「単位団組織の円滑な組織運営と活性化を図る」と挙げております。日本スポーツ少年団においても、「単位団は、自主的に参加した子どもたちと、単位団活動をより良くするために補助的な役割を果たすリーダー、適切な指導・助言で子どもたちの能力を引き出し、より良い社会人へと導くことができる指導者や役員、スタッフ、地域の中で財政面、労力面、精神面にわたって単位団を支えてくれる育成母集団が重要なメンバーとなり、はじめて組織として確立されるものです。」と示されています。このように、単位団組織の円滑な組織運営と活性化が、単位団におけるさらなるスポーツ少年団活動の発展につながると考えております。そのためにも、鹿児島市スポーツ少年団においても、研修会の実施やリーダーの養成等を行ってまいりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

今後におきましても、新型コロナ禍における活動の制限や指導者制度の改定、運動適正テストⅡの策定等、指導者、母集団の方々には、ご負担をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のもと、お力添えいただきますようよろしくお願いいたします。

結びに、鹿児島市スポーツ少年団がますます発展いたしますことを祈念いたしまして、はじめのあいさつといたします。

鹿児島市スポーツ少年団
本部長 大瀬 克広

2 調査概要

(1) 調査目的

「ブロック別指導者・母集団研修会」は、地域におけるスポーツ少年団活動の充実を図るため、ブロックごとに指導者、母集団が一堂に会し、講話や協議を行い相互の共通理解を図ることを目的としている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行や各ブロックでの感染症対策の負担を考慮し、例年の形式での開催を見送りとした。

そこで、基本理念に則った望ましいスポーツ少年団活動を行うため、鹿児島市スポーツ少年団の重点事項の理解度・実施率の調査等を行い、その集計結果を、各単位団で共有し、スポーツ少年団活動に活かすために、書面による代替開催とした。各単位団における団活動についての悩みや疑問等の調査を行い、例年、ブロック別指導者・母集団研修会の講師を務めている鹿児島市スポーツ少年団指導部会員が回答する。

(2) 調査方法・内容

(方法)

- ・各単位団に調査票（指導者用・育成会用）を配布
- ・指導者、育成会の各一名以上の回答
（QRコードよりフォームでの回答または校区代表へ提出）
- ・回答期間 令和3年5月6日～5月31日
- ・各校区代表及び各ブロック長で提出をとりまとめ、事務局へ提出
- ・事務局で回答の集計

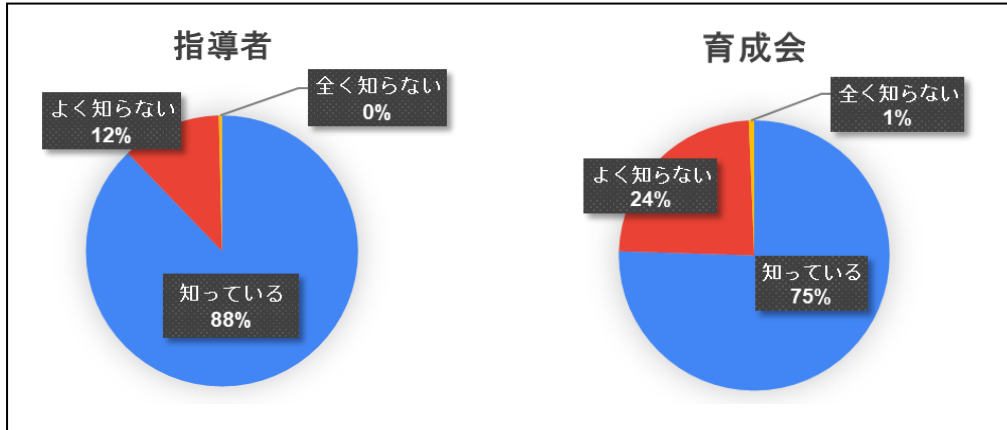
(内容)

- ・鹿児島市スポーツ少年団の重点事項の基本方針の項目別の理解度・実施率の調査
- ・4つの基本方針それぞれで、各単位団での取り組みや成功例等の調査
- ・各単位団における団活動についての悩みや疑問等の調査

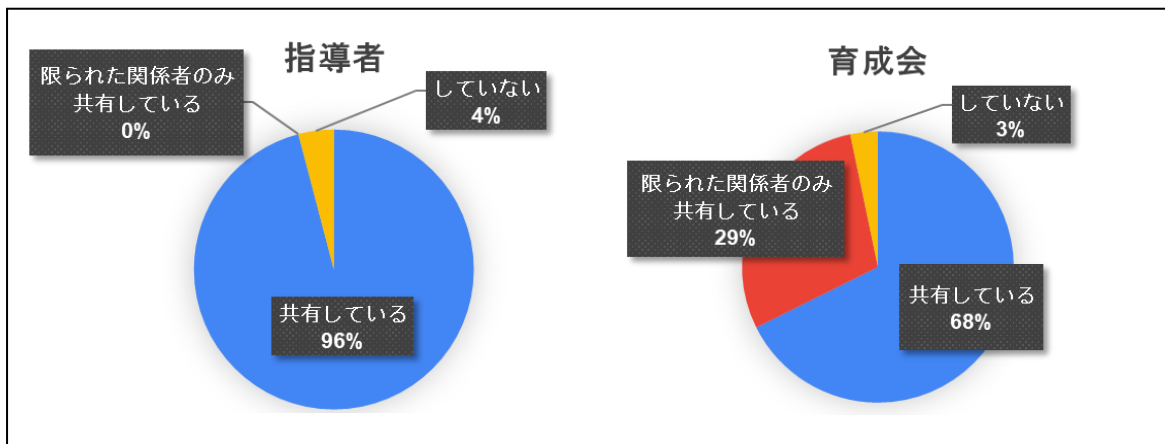
3 調査結果

(1) 鹿児島市スポーツ少年団の重点事項について

設問 1：鹿児島市スポーツ少年団の重点事項について知っている。



設問 2：鹿児島市スポーツ少年団の重点事項を団内（指導者・育成会）で共有している。



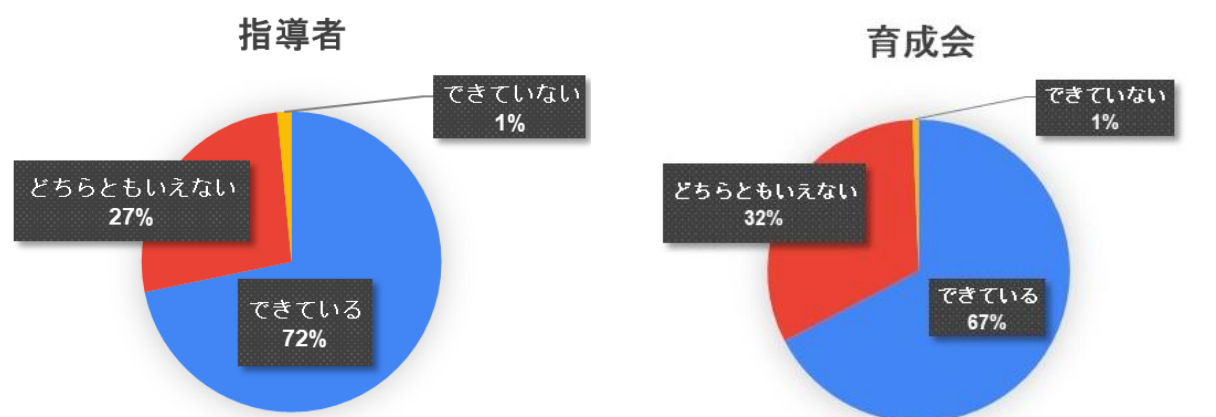
(2) 基本方針1「団員の積極的な加入奨励と青少年健全育成」について

1 団員の積極的な加入奨励と青少年健全育成

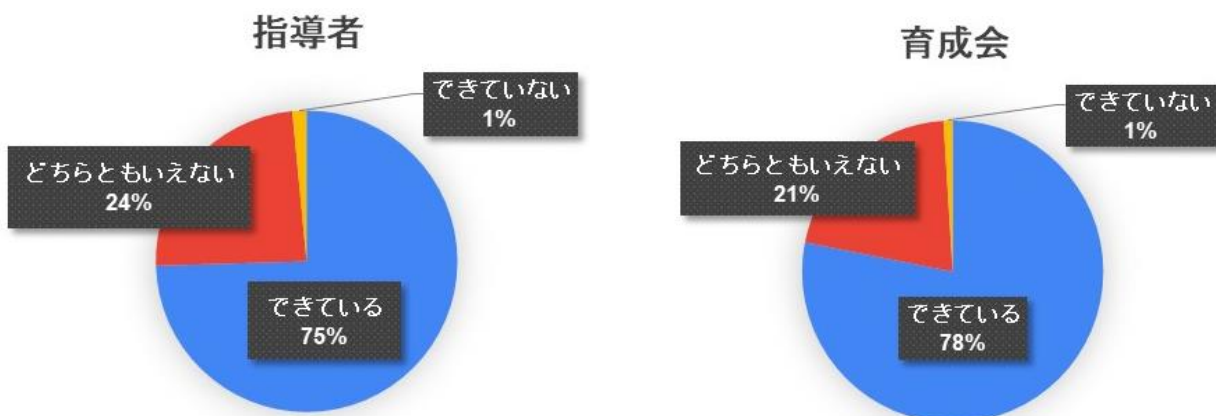
- (1) レインボー作戦の趣旨を理解した活動を推進する。
- (2) 積極的な団員の加入促進を図る。
- (3) スポーツ少年団への地域理解を得るための啓発・実践活動を展開する。
- (4) あいご会やPTA、町内会等との連携・協力による青少年健全育成地域活動を展開する。

設問3：基本方針1「団員の積極的な加入奨励と青少年健全育成」について

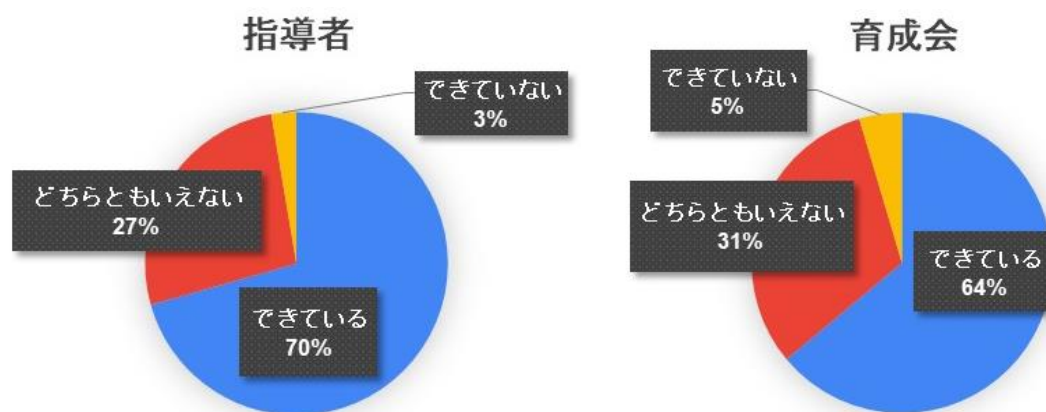
- (1) レインボー作戦の趣旨を理解した団活動を推進している。



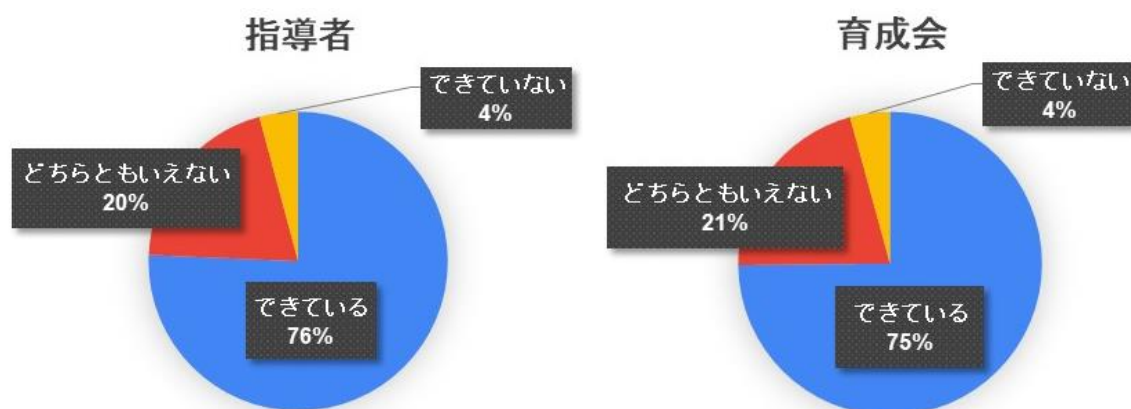
- (2) 積極的な団員の加入促進を図っている。



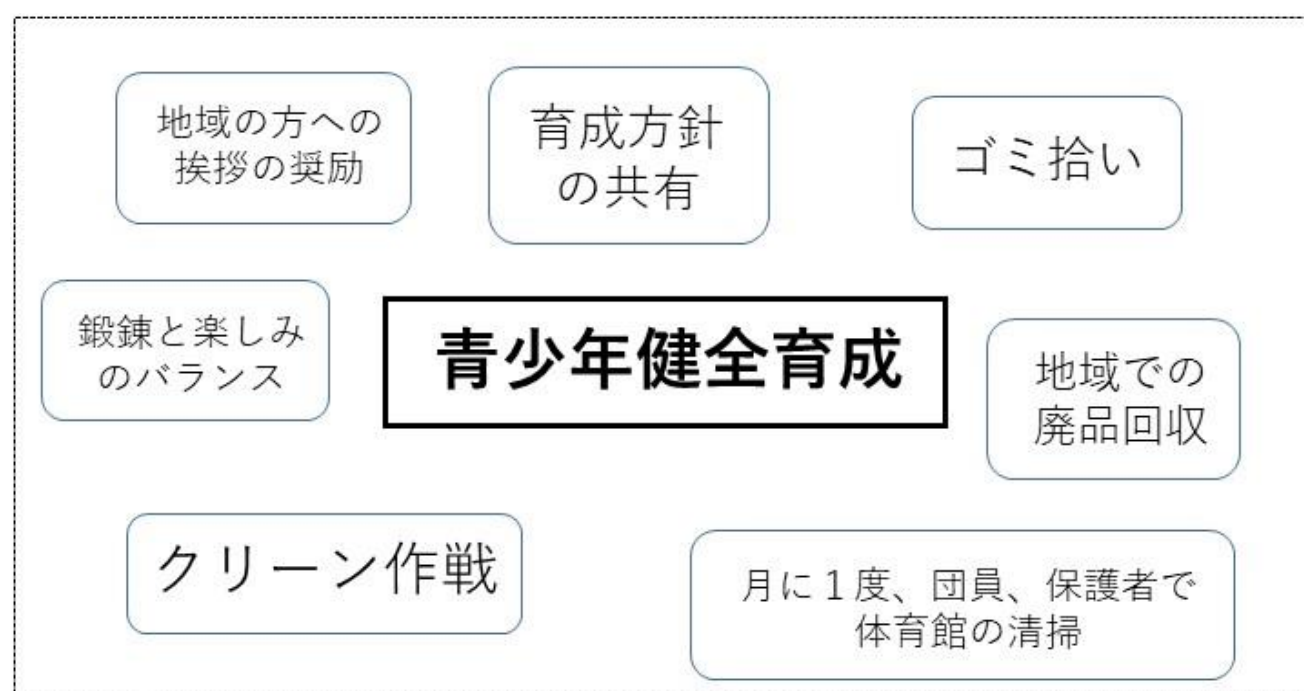
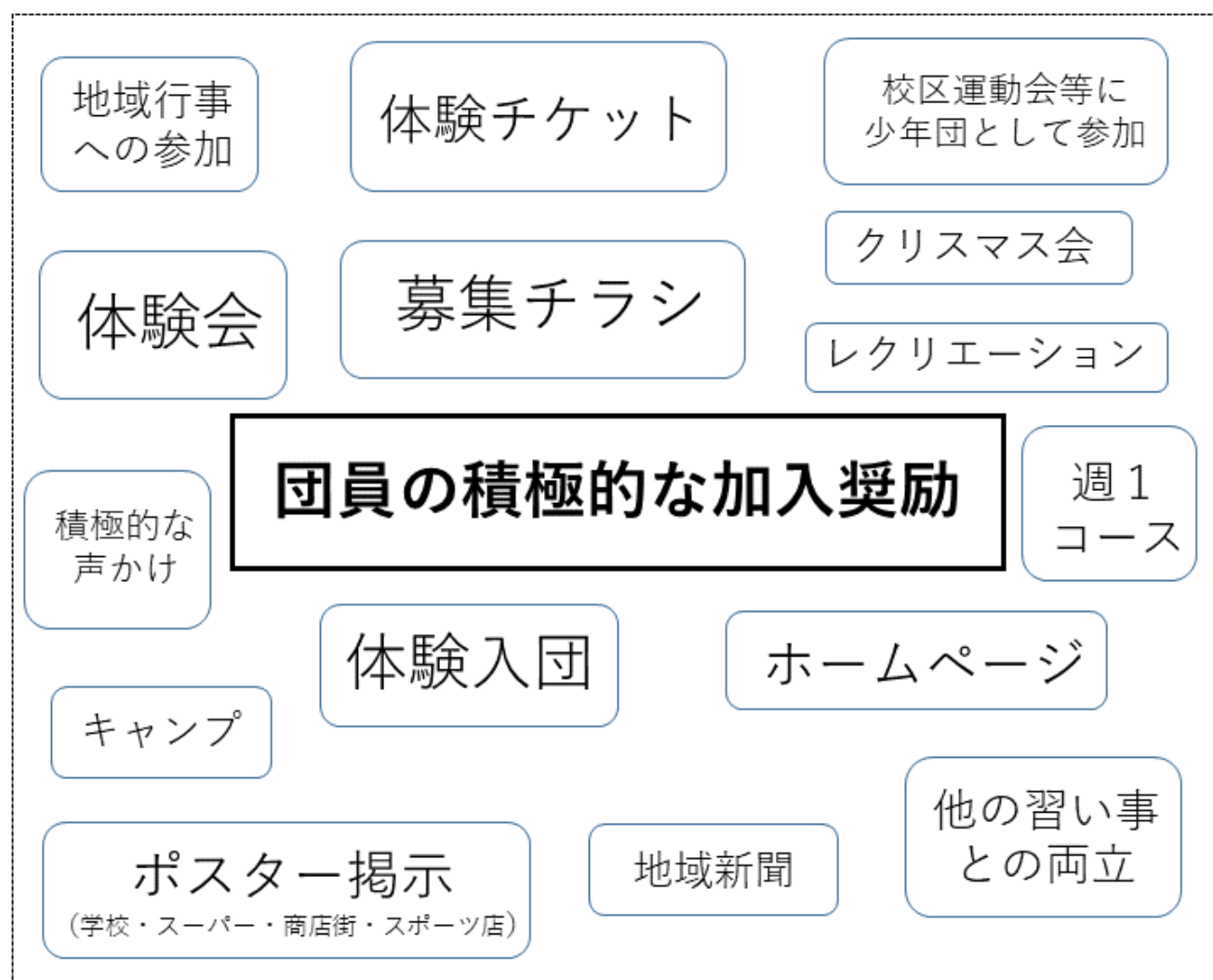
(3) スポーツ少年団への地域理解を得るための啓発・実践活動を展開している。



(4) あいご会やP T A、町内会、校区コミュニティ協議会等との連携・協力による青少年健全育成地域活動を展開している。



設問4：基本方針1について、貴団での取り組みや成功例等があれば、教えてください



【回答内容】 ※各単位団からの回答をそのまま掲載しております。

- ・地域の方々への挨拶の奨励
- ・体験会、地域児童クラブとの交流会の開催
- ・体験教室やイベントを開催し、団員加入に力を入れている
- ・地域の活動として、年に3～4回ゴミ拾いを実施しています。
- ・ホームページの作成
- ・ポスターの掲示、配布（学校、スーパー、商店街、地域、スポーツ店）
- ・PTA活動などに積極的に参加することで団の存在を知ってもらうようにしている。
- ・団員募集の取り組みに新しいポスター作成、校区外への掲示する事で校区外からの入団や体験生があった。体験チケットを作成したことで来やすくなり体験者が増えた。
- ・積極的にあいご会活動に参加し、リーダーとしても活躍、またレクリエーションや体力テストも実施している。
- ・取り組みとして地域活動のラジオ体操や歩こう会などの積極的な参加を呼び掛けている。団としてはクリスマス会や栄養会などを計画していたが、コロナで縮小して実施しました。
- ・校区運動会等は少年団でも参加。
- ・月に一度、団員、保護者で体育館の清掃
- ・地域での廃品回収活動
- ・体験会を通じて野球に触れ合える機会を増やし、団員を増やしている。
- ・地域新聞への団活動の掲載
- ・習い事をたくさんしている子もいるため、週1コースを導入しました。そこから、バレーの楽しさを知り、週3コース、試合に出られる子もいるようになりました。地域のクリーン活動への参加、あいご活動への月1参加しています。
- ・令和3年度は、他の団と協力して、体力テストを4月中に実施。体力テスト前に、育成会の役員を中心に体力テストの内容を把握して、行ったため、スムーズに実施できた。
- ・年に数回、団員募集のために小学生を対象にソフトボール（レクリエーション）の入団体験等を行っている。
- ・体験入団を行い、加入促進を図っている。
- ・学校全体の少年団募集の他に団独自でも募集案内を配ったりしているが、なかなか入団してこない。子供は入団したいのだが、親が少年団は大変だからと反対しているという声をよく聞く。
- ・校区クリーン作戦への参加をしている。キャンプの実施。
- ・コロナ禍の中、積極的な加入奨励は厳しい状況である。ガイドラインを作成し、それに沿って活動している。
- ・積極的な声かけ、教育現場への資料配布
- ・学校行事等の参加、クリーン作戦など
- ・年1回の父母会の総会時に「スポーツ少年団活動について」4ページからなる資料を作成して、代表指導者の考えを育成会に徹底させている。
- ・校区スポーツ少年団、学校町内会、校区コミュニティ協議会と連携し、交通安全パレード、青少年健全育成大会、夏祭りのお神輿作り、運動会での入場行進、校区内清掃等、団員、育成会が積極的に参加している。校区コミュニティ協議会広報誌「LL 鴨池」に校区スポーツ少年団行事や団員募集を掲載していただいている。
- ・積極的に団員加入に力を入れており、体験等を行っている。
- ・指導者がコミュニティ協議会の役員なので連携がとれている。
- ・監督自ら、子どもたちに声かけ（ソフトボールの楽しさ等）をして、積極的な加入促進を行っている。
- ・鍛錬と楽しみのバランスを考えている
- ・他の習い事の両立を認めている
- ・町内会・校区コミュニティ等の行事への少年団としての参加を積極的に行っている。
- ・団員募集のチラシポスターを団員で作成し、校区・校区内商店等に掲示させてもらった。

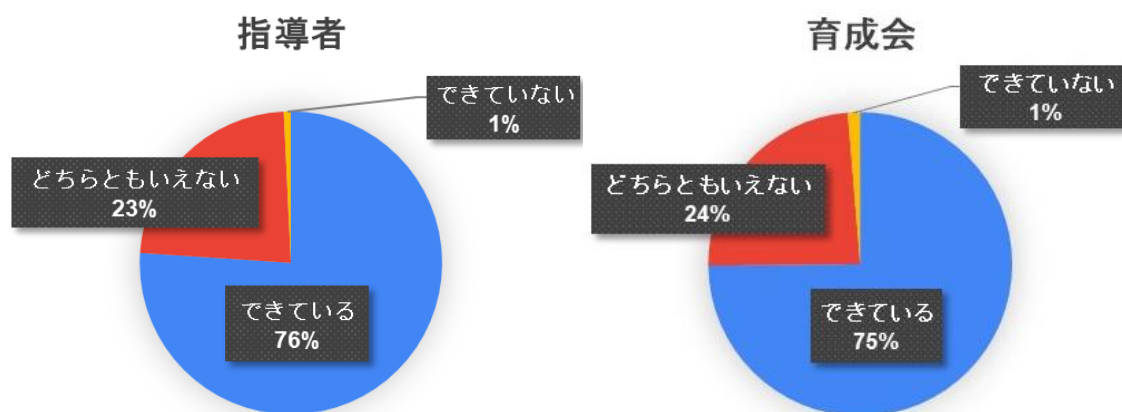
基本方針 2 基本理念に則った望ましい団活動の展開

- (1) スポーツ少年団の本旨に基づいた調和のとれた活動の推進
《7つの領域のバランスのとれた実践を推奨する。》
- (2) 第3土曜日(青少年育成の日)、第3日曜日(家庭の日)の地域や家庭における活動推進
《地域活動を優先しよう。》
- (3) 適切な活動日数の推進 《1週間に2～3日の活動日数にしよう。》
- (4) 適切な活動時間の推進 《1日2時間以内の活動にしよう。》
- (5) 適切な活動時間帯の推進
《屋外は日没まで、屋内は午後7時までには活動を終了しよう。》
- (6) 対外試合の精選 《月1回程度に止め、無理のない計画を立てよう。》
- (7) 土・日曜日の団活動の適正化
《土曜授業の確認、学校行事や地域行事等を優先した計画を立てよう。》
- (8) 団員の自主的・主体的活動の推進
- (9) 団員の技能差による指導の軽重を避けた、団員一人一人の心に寄り添う平等な指導

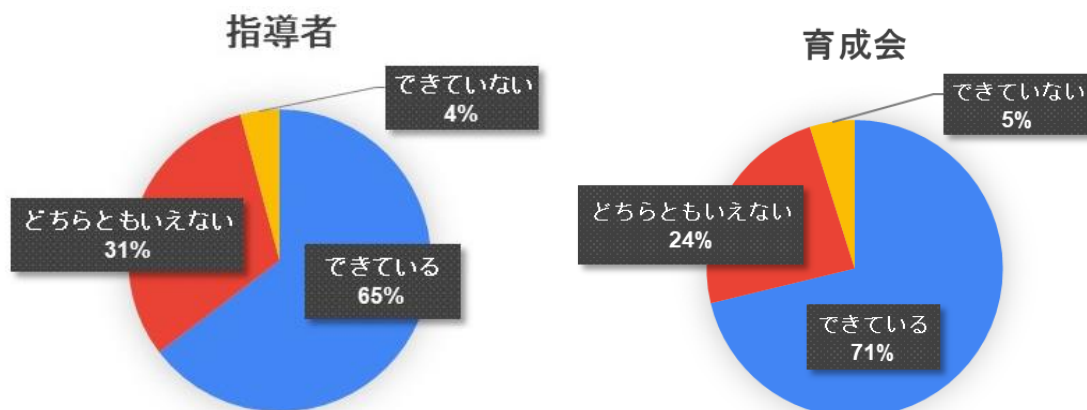
過度な練習の自粛

設問5：「基本理念に則った望ましい団活動の展開」の項目について

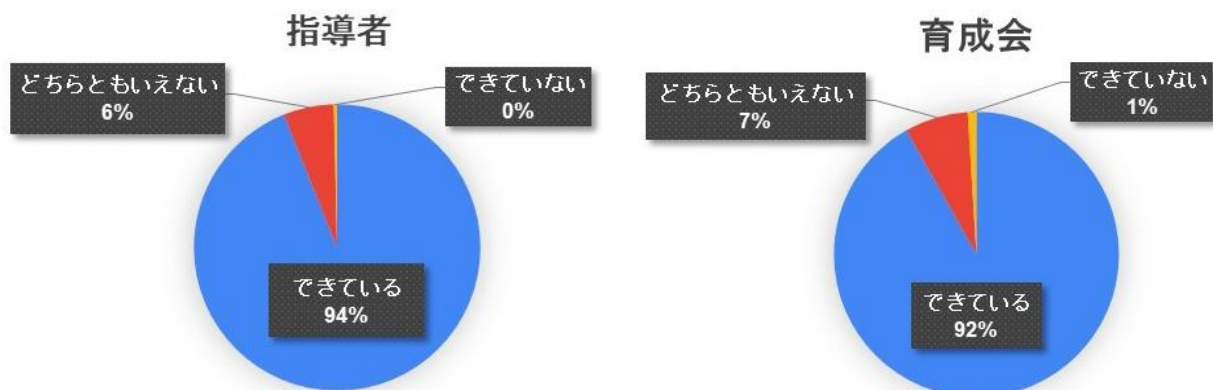
- (1) スポーツ少年団の本旨に基づいた調和(7つの領域のバランス)のとれた活動を実践している。



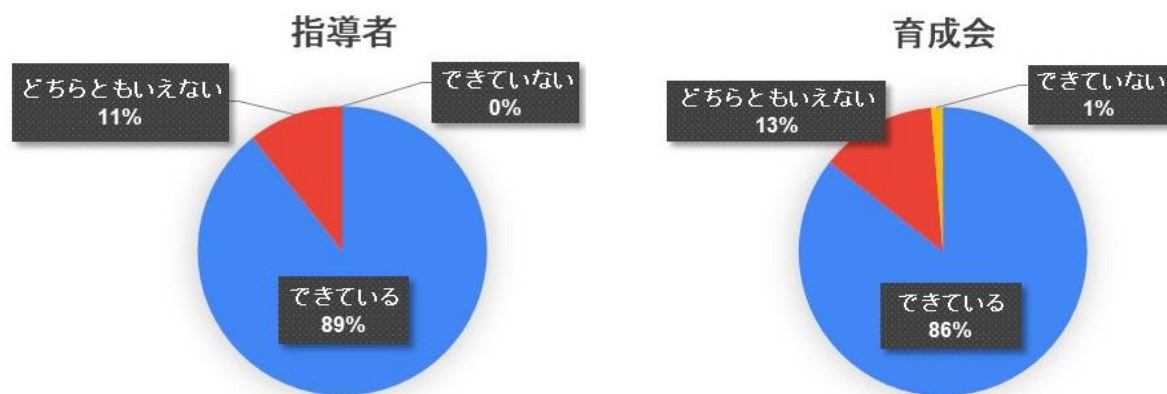
- (2) 第3土曜日(青少年育成の日)、第3日曜日(家庭の日)の地域や家庭における活動を推進し、地域活動を優先している。



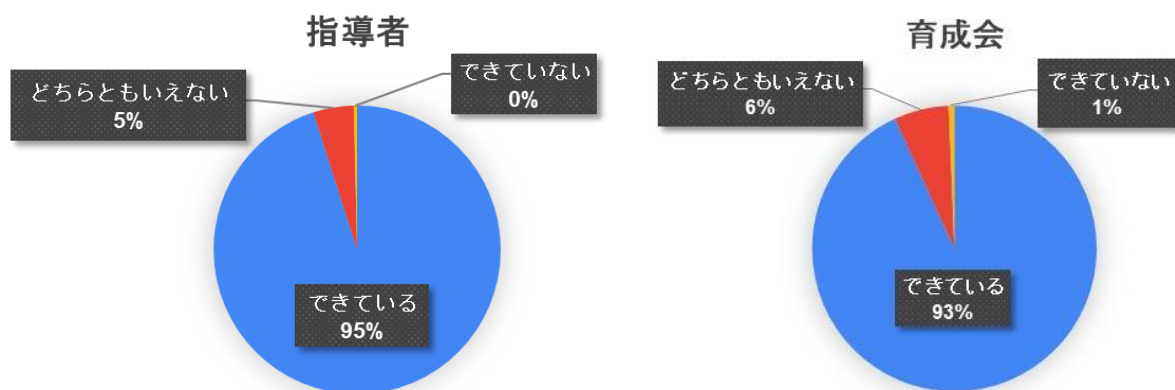
(3) 適切な活動日数（1週間に2～3日）で活動している。



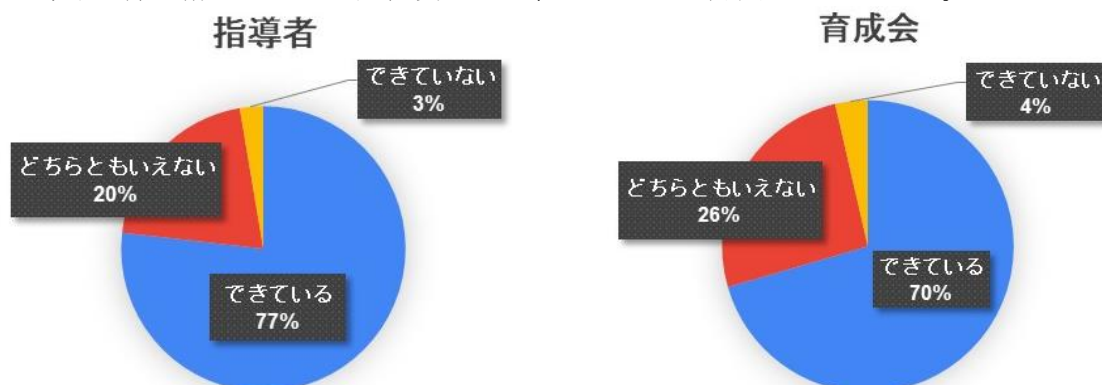
(4) 適切な活動時間（1日2時間以内）で活動している。



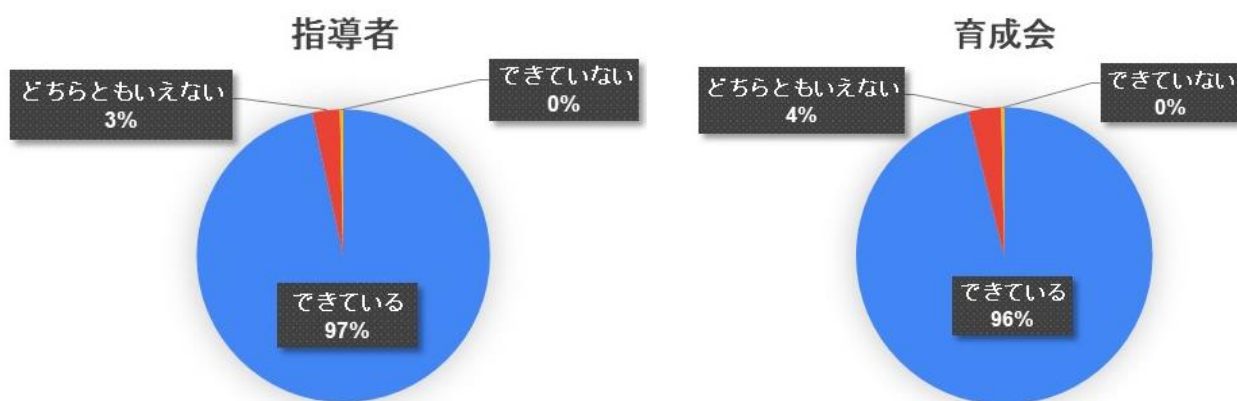
(5) 適切な活動時間帯（屋外は日没まで、屋内は午後7時まで）で活動している。



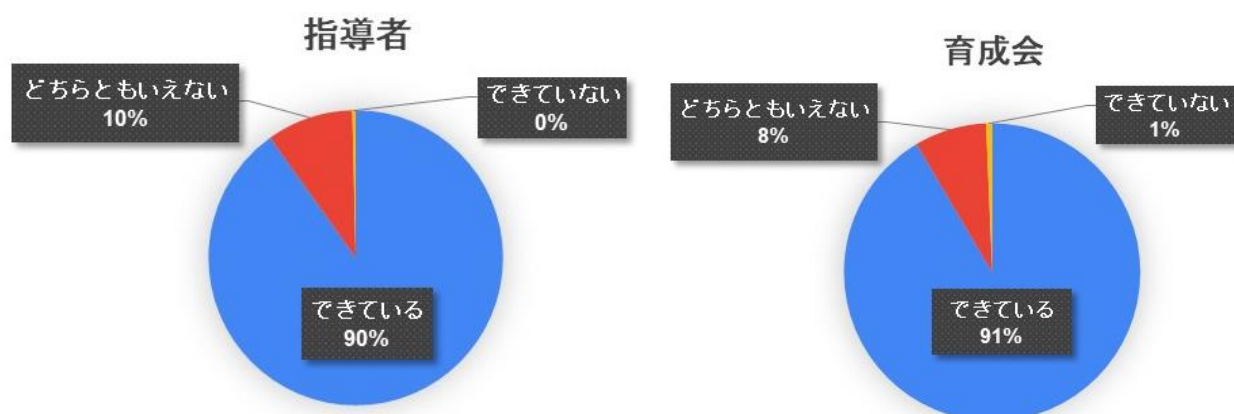
(6) 対外試合は精選して月1回程度に止め、無理のない計画を立てている。



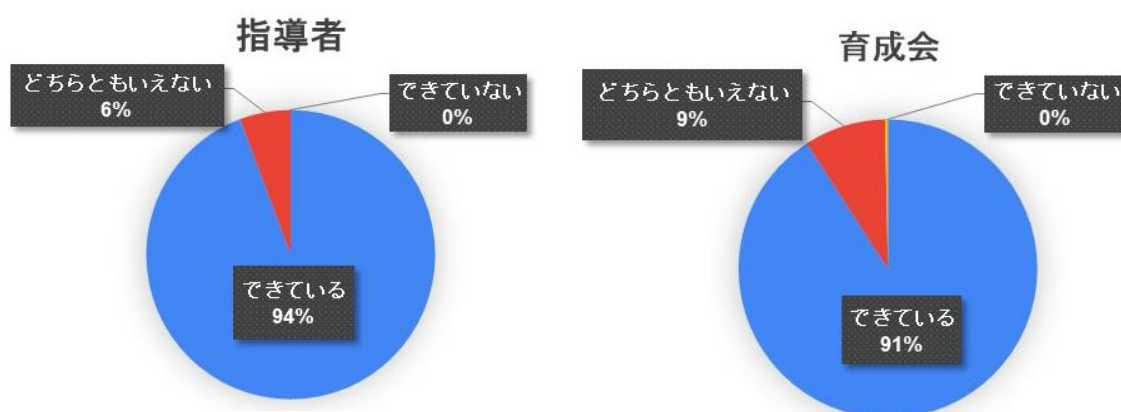
(7) 土・日曜日の活動は、土曜授業や学校・地域活動等を優先して、適正な計画を立てている。



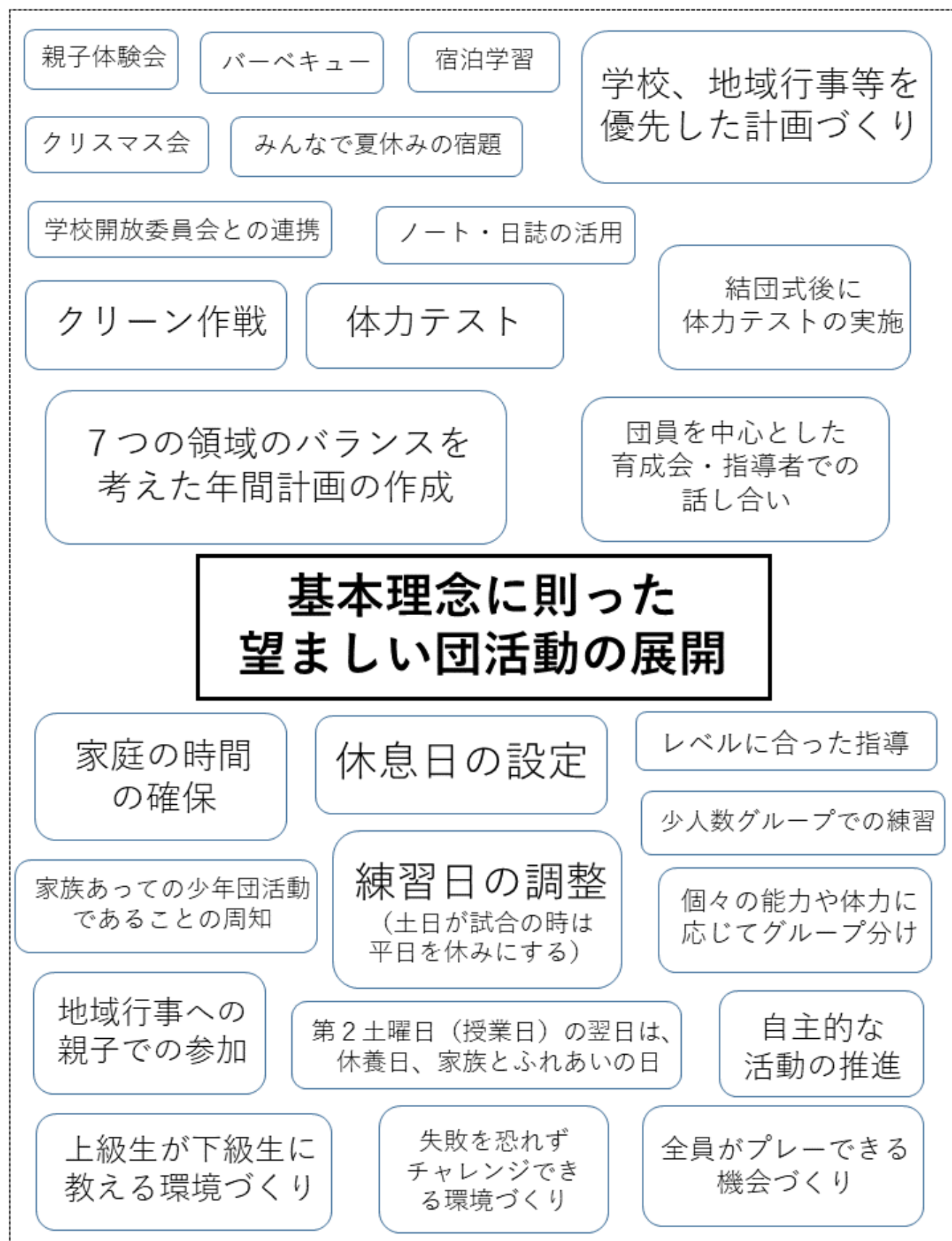
(8) 団員の自主的・主体的活動の推進を図っている。



(9) 団員の技能差による指導の軽重を避け、団員一人一人の心に寄り添う平等な指導を行っている（受けている）。



設問6：基本方針2について、貴団での取り組みや成功例等があれば、教えてください。



【回答内容】 ※各単位団からの回答をそのまま掲載しております。

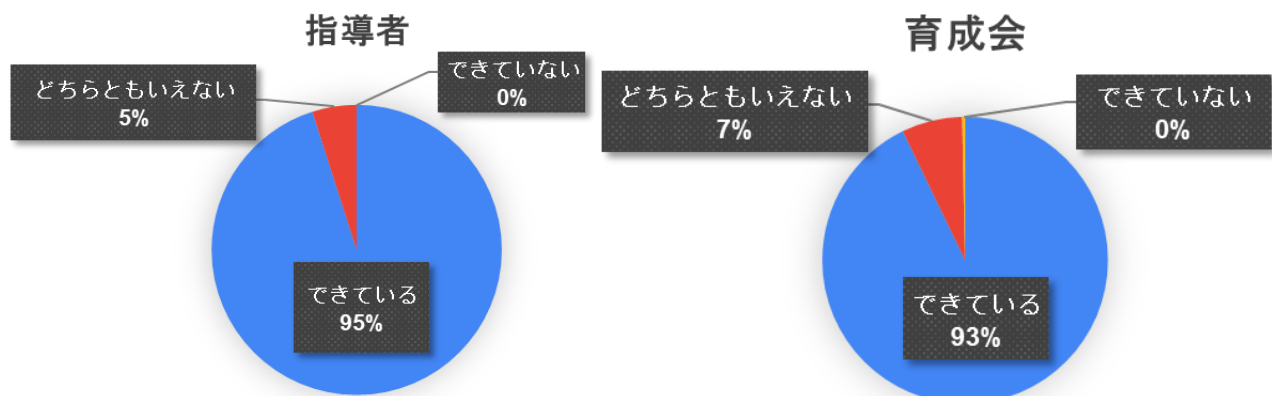
- ・ノートの活用
- ・家族あつての少年団活動であることの周知と団員自らの意思の尊重
- ・毎月実施しているクリーン作戦
- ・歩こう会やクリーン作戦に参加し、宿泊学習を行っている。
- ・学校、地域行事等を優先し計画を立てて活動している。また、スーパーなどにポスターを貼り、団員、母集団全員で入団に取り組んでいる。その成果もあり少しずつ団員が増えてきている。
- ・第3土曜日に固定せず、必ず月1回土曜日に休みをとるようにしている。
- ・土日試合がある場合は平日の練習を減らし、週3日にしています。
- ・休息日の設定、試合後日の練習メニューの軽減、少人数グループでの練習等(感染予防対策含む)
- ・育成会員の少年団活動は当番制とし、分担することで負担を減らせている。連絡もLINEを活用し早めに通知しスケジュールも無理なく参加できるようにしている。
- ・日曜日の活動については、土曜授業の翌日は少年団活動をせず、団員の休養日、家族とのふれあいの日としている。
- ・一人一人の技能に合わせ、失敗を恐れずチャレンジできる環境を作るよう心がけています。その他活動時間については厳守し活動しています。
- ・子供によって技能差はあるけど、子供や親のせいにはせず指導しています。
- ・スポーツ活動において、運動能力の優れた団員のみならず、どちらかといえば運動神経の発達状況に遅滞の見られる団員について、以前より能力開発にとてうまく取り組めている現状があり望ましい。
- ・エアコンなど設置してある体調管理のしやすい場所の確保
- ・試合や練習試合を除き、毎週土曜日または日曜日を休みとしている。
- ・団活動の前半にリーダーに約30分時間を与えて、リーダー研修で学んだゲーム等を生かして身体を動かしている。
- ・個々の能力や体力に応じて3~4グループに分けて練習メニューを実践している
- ・指導者、育成会(母集団)との連携を密にする為に「育成指導員」を配置している
- ・出来るだけ全員がコートに入ってプレー出来るように機会を作っている。
- ・第3土曜に限らず、育成会と相談し、家庭の時間の確保
- ・夏休みには、みんなで宿題をしたり、スイカわり、バーベキュー、クリスマス会などレクリエーション活動を行っています。地域の年間行事に全て親子で参加を原則とし、高齢者とのふれあいも兼ねている。
- ・雨でグラウンドが使えない場合、公民館で少人数の屋内トレーニングをした。
- ・年間計画を立てる際、7つの領域のバランスを考え、団員が楽しめるよう工夫している。
- ・団員を中心に育成会・指導者等、綿密に話し合いを行っている。
- ・県ソフトボール少年団連絡協議会の申し合わせにより、第3土・日曜日を休みにし、地域活動や親子、家族間のコミュニケーション作りにあてている。
- ・体力テストを結団式の後に行っています。合宿を通して、団員の親睦を図っています。年末クリーン作戦で地域のチリ拾いを行っています。団員が楽しくお互い思いやって活動できるように努力しています。
- ・指導者だけでなく、上級者が下級生に練習前の準備や片付けを教える流れを作って、相手の立場を理解できるように行っている。団員同士、仲良く協力し合っている。
- ・決して無理をさせない活動を行ったり、各個人のレベルに合った指導を行っている。
- ・キャンプ、合宿、クリスマス会、親子体験会等を行い、団員が楽しく活動できるように取り組んでいる。
- ・7つの行動を踏まえて年間行事を組むようにしている。
- ・体力テストの実施、クリスマス会の実施、クリーン作戦への参加
- ・時間や活動内容、季節など考慮し、また団員の自主的な活動を推進するよう心掛けています。
- ・総会資料に「鹿児島市スポーツ少年団の重点事項」「指導者綱領、団員綱領」「スポーツ少年団の歌、若いぼくら、みどりの潮風」を掲載し、校区結団式やブロックスポーツ少年団交歓交流大会等で実行している。
- ・活動時間は厳守するように心掛けています。体育館が使用出来ない時は、休みにするなど、無理ないようにしている。
- ・空手道は個人競技なのでレベルに合わせて指導を行っている。
- ・学校開放委員会で活動の日時をしっかりと決めている。
- ・バレー日誌を通じ、疑問点を聞いたり、アドバイスしたりしています。
- ・技術の向上もそうですが、ソフトボールに限らず、まずはスポーツを楽しむことを重視している。
- ・交流大会への積極的な参加、稲刈り、脱穀作業体験やバーベキュー大会の実施、又は特に礼儀作法等を重点に取り組んでいる。

基本方針3 指導者・リーダーの養成と資質向上

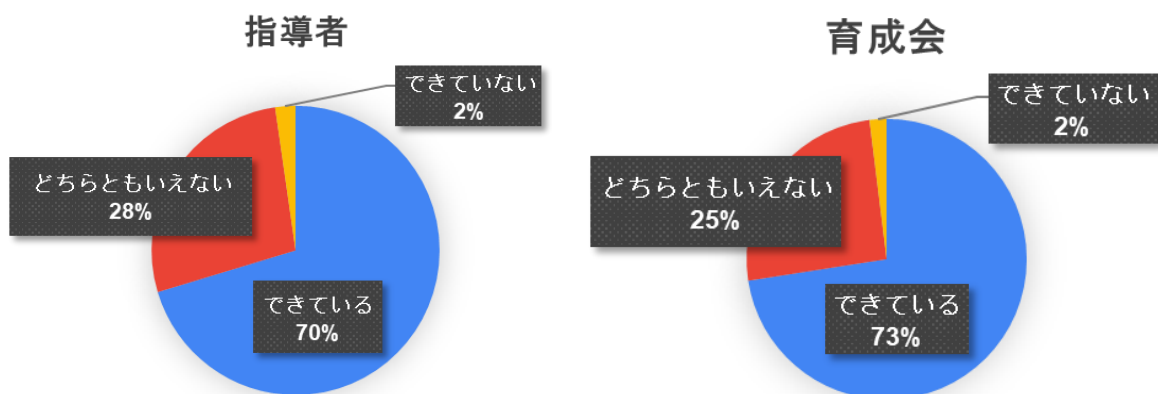
- (1) 活動現場における暴言・暴力行為等の根絶に努める。
- (2) スタートコーチ（スポーツ少年団）資格の意義の啓発とスタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会への参加推進を図る。
- (3) ブロック別指導者・母集団研修会、指導者研修会の内容充実と積極的参加の推進を図る。
- (4) 生涯スポーツ研究公開の充実と参加推進を図る。

設問7：基本方針3「指導者・リーダーの養成と資質向上」について

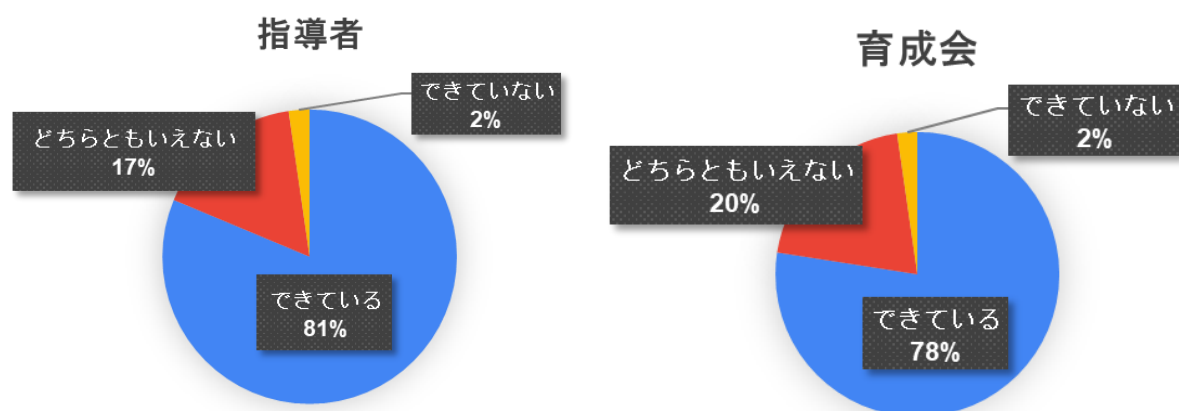
- (1) 活動現場における暴言・暴力行為等の根絶に努めている。



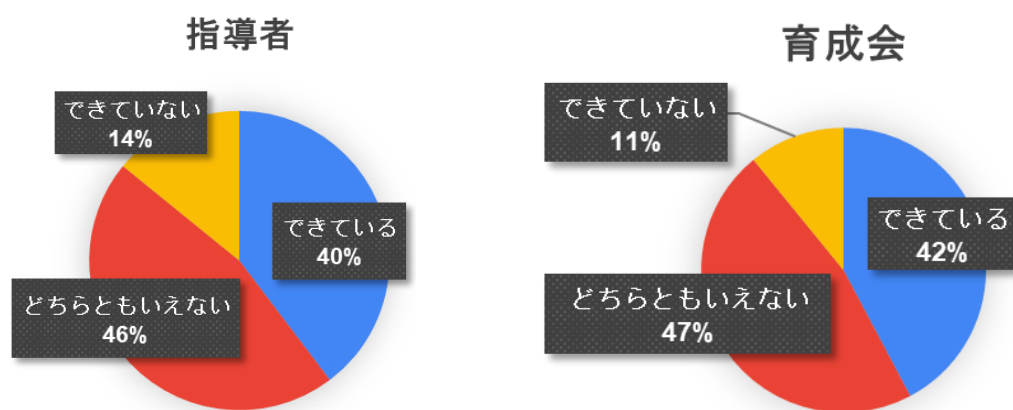
- (2) スタートコーチ（スポーツ少年団）資格の意義を啓発し（育成会内で共有し）、スタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会への参加推進を図っている。



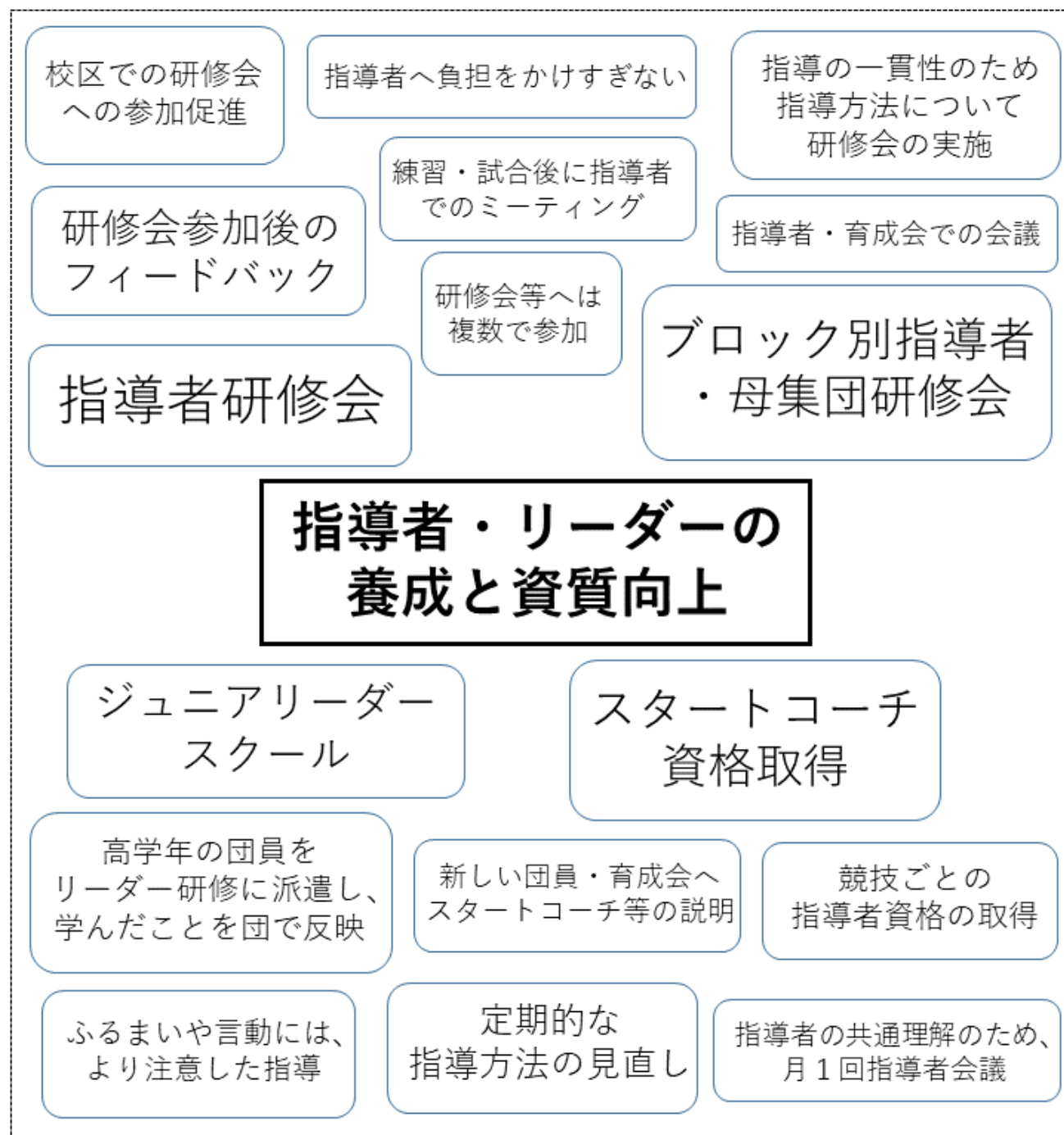
(3) ブロック別指導者・母集団研修会や指導者研修会に（育成会員も）積極的に参加している。



(4) 生涯スポーツ研究公開へ（育成会員も）積極的に参加している。



設問 8：基本方針 3 について、貴団での取り組みや成功例等があれば、教えてください。



【回答内容】 ※各単位団からの回答をそのまま掲載しております。

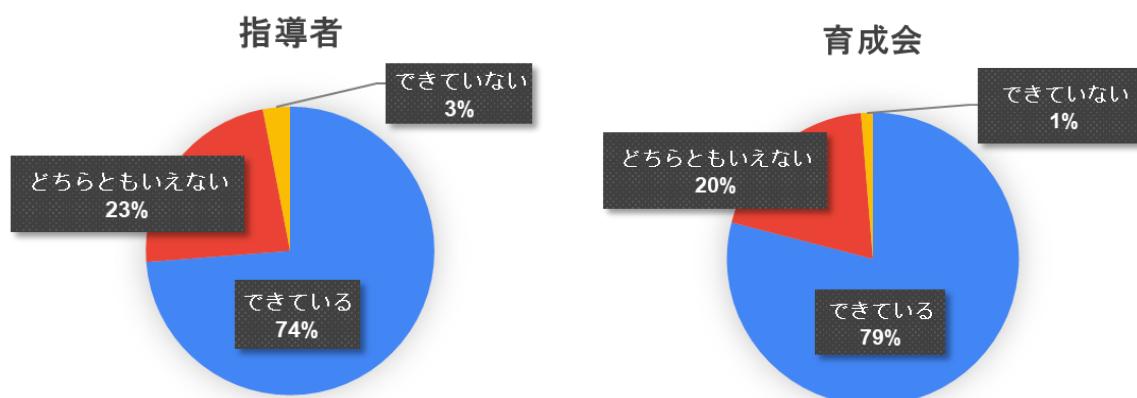
- ・小学校の他の団体との意思疎通とイベントの実施
- ・総会にて最初に参加を募って、積極的に参加を薦めている
- ・スタートコーチの養成講座は、積極的に参加を促し、現在育成会含め6名が取得済みです。
- ・積極的に指導者の資質向上を図っています。
- ・練習後・試合後に指導者でミーティングを行い、指導時の態度・言動等についても確認と改善をしている。
- ・指導者は日本バスケットボール協会公認のコーチライセンスを保持しており、毎年年度始めにライセンス更新のため上記内容にもあります暴言暴力行為や子供たちの健全な育成のために講習を受講し、健全な育成に努めています。
- ・早くから日本バドミントン協会のコーチ資格を取り、技術指導の他にも積極的に地域にも貢献している。
- ・指導者自身の質の向上に向けた資格取得や研修参加に力を入れることが出来ている。団員だけでなく、指導者の人材確保もうまくいっている
- ・スタートコーチ講習会参加を積極的に推進している
- ・母集団研修など積極的に参加している
- ・毎年、5年生・6年生をリーダー研修に派遣しそこで体験したことを団に反映している。
- ・競技指導だけでなく、少年団活動を充実するために役割分担して資格取得に努めている。
- ・定期的に指導方法について話し合ったり、スタートコーチ資格の参加を積極的にできていると思います。
- ・指導者の共通理解の為、月1回コーチ会議を行っている。反省と次の計画を細かく決めている。育成会との会議も月1回行っている。
- ・協力を頂きながらも、負担になってはいけないと思うが興味を持たれている方には、積極的にアプローチをかけている。
- ・新しい団員・育成会へ、スタートコーチ等の説明を行っている。
- ・吉野校区全少年団に研修会等へ積極的参加を促している。
- ・スタートコーチ養成講習会への参加を推進しています。ブロック別指導者・母集団研修会や指導者研修会などへの参加を呼び掛けています。
- ・スタートコーチ資格の取得を目指し、指導者としての資質の向上に努めている。
- ・研修会等にはなるべく参加して、フィードバックを行うようにしている。
- ・毎年、ブロック別の研修会に指導者・母集団ともに積極的に参加している。
- ・指導者全員が団員の指導方法について、研修会を行い、指導の一貫性を行っている。
- ・各研修会、ジュニアリーダー等積極的に参加している。
- ・以前から暴言等はなく、団員育成の観点からも絶対にあってはならないことと考えている。制度改正で申請することを承知している。
- ・活動中のふるまいや言動には、より注意し、指導をするように心がけている。
- ・スタートコーチ養成講習会への参加について、卒団生で一般社会人1人と5歳の団員の母一人に呼びかけを行っているところである。
- ・ブロック別指導者・母集団研修会には、育成会全員が参加し、準備設営、当日の係をしている。
- ・研修会等は、1人に限定せず、複数の人に参加するように心掛けています。
- ・スタートコーチ資格のないコーチ（指導者）に積極的に参加依頼している。

重点事項 4 組織の充実

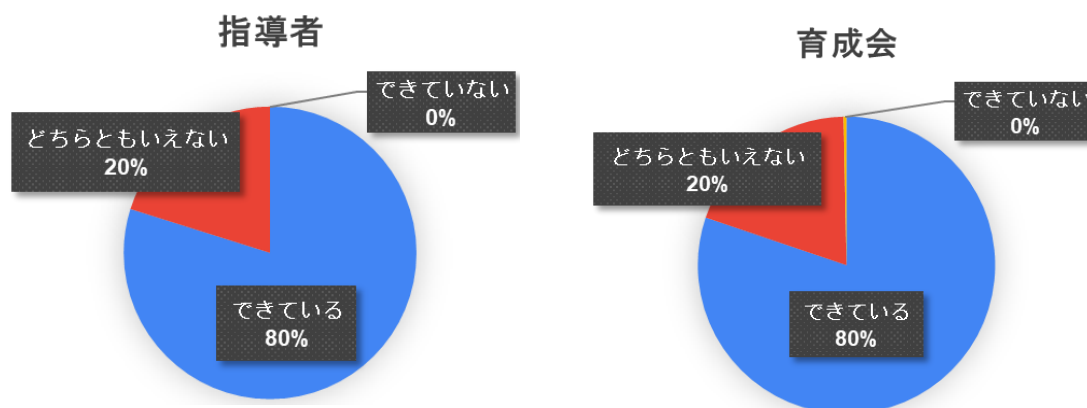
- (1) ブロック協議会、校区連絡協議会、校区指導者協議会、単位団組織の円滑な組織運営と活性化を図る。
- (2) スポーツ少年団の基本理念に反する活動に対して、指導・助言等を行う指導連絡体制を機能させ団活動の適正化を図る。
- (3) 校区、ブロックレベルでの育成母集団組織の育成と充実を図る。
- (4) リーダー会入会の呼びかけの推進及び組織充実・拡充を図る。

設問 9：基本方針 4「組織の充実」について

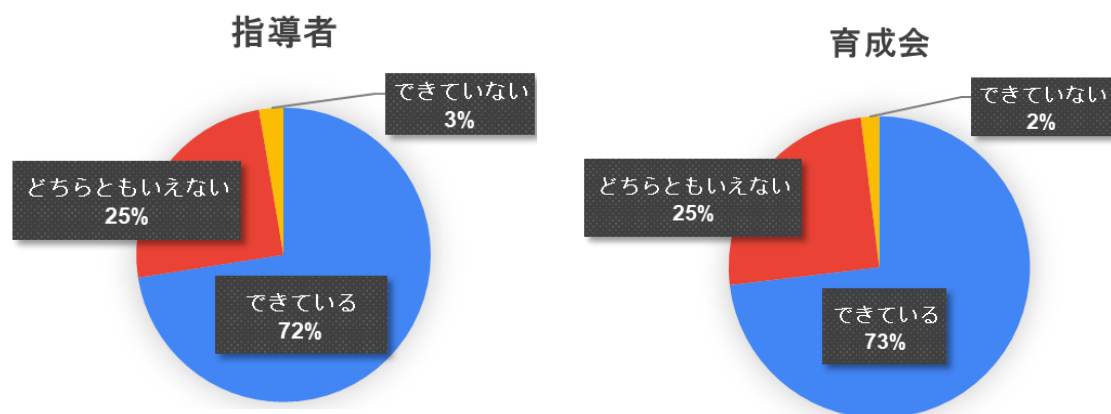
- (1) (指導者) ブロック協議会、校区連絡協議会の運営に積極的に関わり、また単位団組織の円滑な組織運営と活性化を図っている。
(育成会) ブロック協議会、校区連絡協議会の運営に育成会も積極的に協力し、また単位団組織の円滑な組織運営と活性化を図っている。



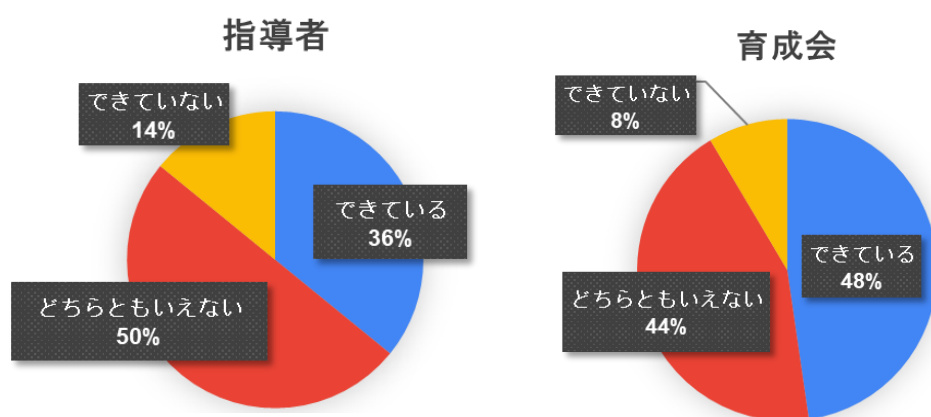
- (2) (指導者) スポーツ少年団の基本理念に反する活動に対して、指導・助言等を行う指導連絡体制を機能させ団活動の適正化を図っている。
(育成会) スポーツ少年団の基本理念に反する活動に対して、指導・助言等を行う指導連絡体制が機能されていて、団活動の活性化を図られている。



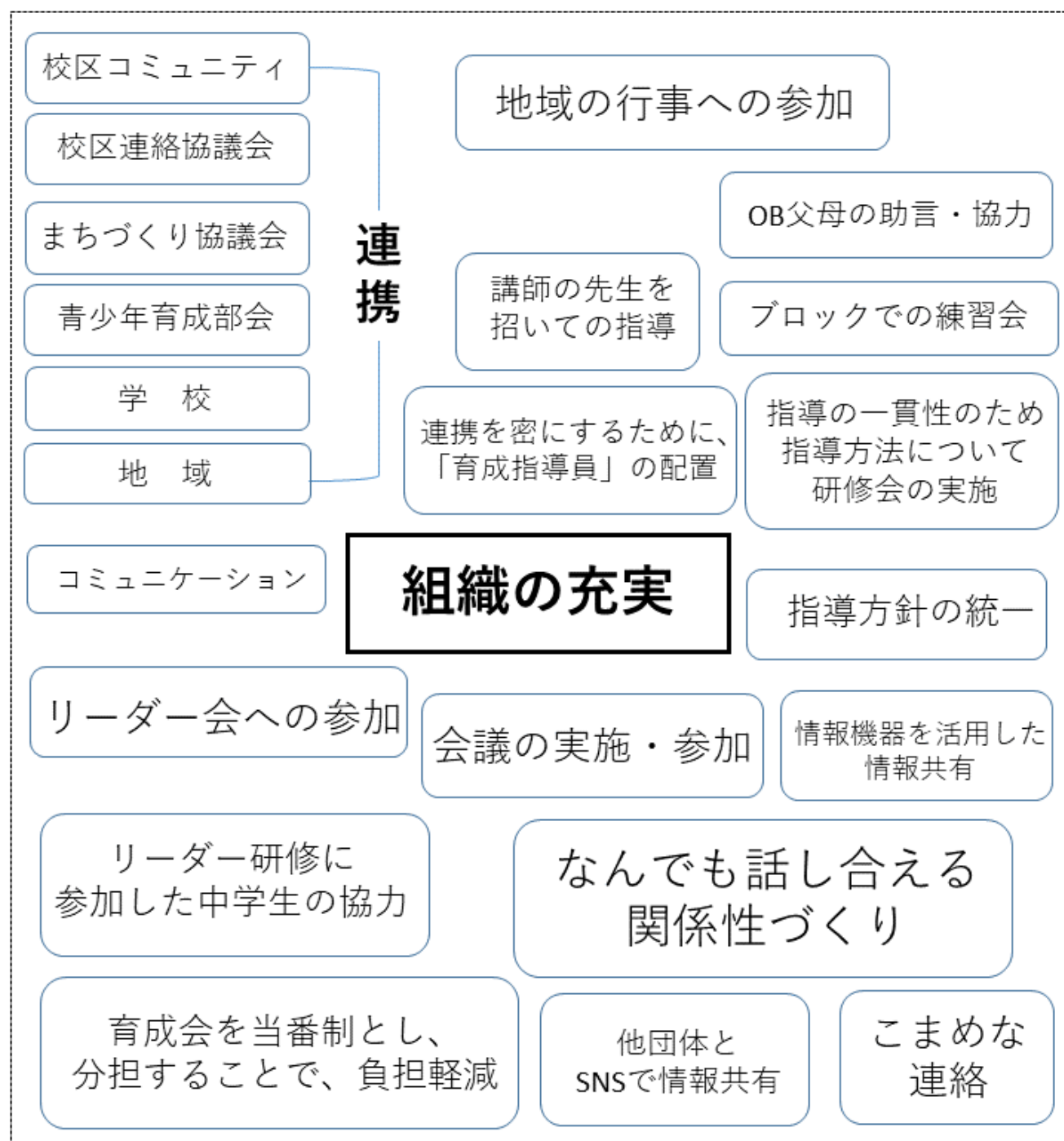
(3) 校区、ブロックレベルでの育成母集団組織の育成に協力（参加）し、充実を図っている。



(4) (指導者) 団員へのリーダー会入会を推進している。
 (育成会) リーダー会への入会を育成会内で情報共有し、推進している。



設問9：基本方針4について、貴団での取り組みや成功例等があれば、教えてください。



【回答内容】 ※各単位団からの回答をそのまま掲載しております。

- ・リーダー研修を勧めたことで中学生がチームの力になってくれています。小学生が困っていると手助けや声かけをしてくれます！
- ・地域の歩こう会、クリーン作戦等、参加しています。
- ・指導者・保護者ともに会議等への参加。
- ・指導者は活動や指導体制など育成会との連絡を常に取り、また育成会からの様々な声が指導者に届くよう、子供たち個人の活動や成長などを常に話し合える距離を保つよう近い立場で会話をするよう心がけています。
- ・指導者各個人が組織の体制の充実に向け、努力するように促すことが出来ている。
- ・他団体との情報共有を SNS を活用している
- ・団員で協力して参加する
- ・あいご会や校区まちづくり協議会などとの連携を取っている
- ・少年団活動について指導者・育成会が団員リーダーと上手く機能している。
- ・会議等に積極的な参加を心がけている。
- ・日程が合う行事には、全て参加している。
- ・学校、校区コミュニティ、校区連絡協議会としっかり連携がとれていると思う。
- ・懇親会、団員へのサポート等、指導方針の統一を行っている。
- ・城西ブロックで練習をしたり、講師の先生の指導を頂く場を作っています。
- ・小学校教員、地域、OB 父母の方々の助言・協力により団の運営はスムーズである。
- ・校区の連絡協議会を行って、円滑な組織運営ができるように話し合っています。
- ・コロナ禍でもあり、校区内の方々とは連携は取れていないが、いつでも連絡が取りあえる状況である。
- ・学校とも連携を取り、各協議会にも関わり、団組織の充実を図る。
- ・協議会などコロナ禍で集まることは困難だが、情報機器を使い、情報の共有をはかるように心がけている。
- ・団員へリーダー会の説明をすることがある。スポーツ少年団の基本理念を尊重し活動している。
- ・団員・指導者・育成会とのコミュニケーションをしっかりとっている。
- ・団としては、大会や行事の開催前に育成会ミーティングを開催、校区は年度初めの登録事務説明会、7月、3月に学校とスポーツ少年団連絡会を開催し、活動状況、安全対策等、意見交換を行い、改善に努めている。ブロック協議会は5月に行事の確認、指導者母集団研修会打合せ、8月は鴨池ブロックスポーツ少年団交歓交流大会の実行委員会を開催している。
- ・2ヶ月に一度の校区の連絡会に必ず出席している。
- ・2ヶ月に1回定期的に会合を行い共通の理解を行っている。
- ・校区コミュニティや青少年育成部会に協力し、積極的に参加している。

設問 10：貴団の団活動についての悩みや疑問等あれば、お書きください。

Q 1 団員が減少しており、団員が少ない中での活動方法や団員を増やすためにどうしたらいいか知りたい。(大会に参加できない、団費が減り活動費不足等)

A1

○団数や団員数の減少が、表向きには「少子化」「指導者不足」「母集団の負担増」「親の考え」「クラブチームへの流れ」などが原因と言われているが、本当にそうなのでしょうか？入団したいと思われる少年団なのでしょうか？少し原因を探してみる。

- ・活動が楽しそうでない。楽しみで活動に行けない。
→スポーツ少年団は活動が競技中心であれ遊び中心であれ、ジュニア期は両方を包含する。
- ・子どもが活動を休めない運営(試合と練習が多すぎる)
→練習や試合が多い団は、子どもも保護者も少しずつ離れていく傾向にある。
- ・勝利至上主義ややり過ぎが問題になる。
→燃え尽き症候群やスポーツ障害を起こしやすい状況にある。将来スポーツを楽しめない。
少年団の理念である逞しい体と豊かな心を養うことが必要です。
- ・指導者の暴力・暴言・各種ハラスメントが見られる。
→スポ少の理念を忘れ、成長期のジュニアであることを理解できない指導者の旧態依然の指導がある。団員中心の活動でないので1人1人が目標を立てられない。指導者の学びの継続と母集団とのコミュニケーションが少ない。
指導者の言動を親は敏感に感じ取っているので、団員に対して、「親しみのある言葉・優しい言葉・笑顔」など愛情あふれる態度で接する必要があります。
- ・母集団の負担が大きい(金銭、労力等)
→保護者の価値観が大きく変化し、生活体系も変わり、子ども中心の生活ではない。
手間のかからない活動を選択する傾向がある。母集団同士の意見の食い違いも多い。
保護者の評判が上がれば、口コミで広がっていきます。
- ・校区内だけでは、団員が集まらない
→隣接校と共同で団員を構成が可能か検討・協議する。

これらのことをクリアしながら、魅力のある(入りたいと思う)活動や団の指導目標を理解していただくことで、団員の加入が増えていくのではないのでしょうか。そのためには、単位団の指導者・母集団一体となって意見交換することも必要です。

Q 2 指導者の確保が難しい。
(次世代の指導者、保護者の指導者が多い、平日に指導者が来れない)

A2

- ・試合・遠征が多く、勝ち負けにこだわっていませんか。
 - ・活動時間や活動日数(練習試合や公式大会も含む)が多く、休みの日が少ないのではないですか。
 - ・指導者にも家庭があり、職場があることを理解していますか。
- これらのことは団員や保護者はもちろん、指導者にも大きな負担になります、以下のことを参考に、改善できるところは改善・改革してみてください。

1. 保護者・地域からの指導者発掘・養成

保護者や地域の中で指導者に適している人材(スポーツ少年団経験者や中・高・大学部活動経験者等)とのコミュニケーションを図り、練習の手伝いや試合参加の機会を設ける。
団員のために公認指導者資格を取得し、代表指導者と共通理解を図ることも大切です。

2. 団員からの指導者養成

小学校卒業と同時に「卒団式」をおこない、少年団から離れていくことをしていく少年団がまだある。日本スポーツ少年団も「卒団式」はしないよう指導している。それは、リーダーを育て、将来指導者にしていく狙いがある。

スポーツ少年団は、原則3歳以上から団員登録ができ、中学生、高校生、大学生まで団員として活動できることを知らない指導者や育成母集団が多い。またリーダーの中から、日本スポーツ少年団公認「ジュニアリーダー」(※①小学5年～中学生)や「シニアリーダー」(高校生以上)になれる。リーダースクールでは公認指導者資格と同じくらいの講習を受けている。(18歳から指導者になれる※②。)

このようにリーダーを育て、活用するならば指導者不足を補うことができる。特にACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)や運動遊び、レクリエーション等に精通しているリーダーが多い。

※① 鹿児島県スポーツ少年団では、ジュニアリーダースクールは小学6年生から中学生を対象としている。

※② シニアリーダーは、18歳から「スタートコーチ」指導者へ移行できる。

3. 指導者の役割分担

団の中での指導者の役割分担(団運営、技術指導、生活指導)を決めることで、地域や母集団の中から指導者を見つけていく。単なる技術指導のみが指導者ではありません。

幼児や低学年の児童の指導を地域での有資格者(教員免許取得者や保育士、看護師等)を指導者をお願いする方法もあります。

また、母集団の活動促進による指導者育成であるが、負担増や共働きで容易でない。そこで、お互いに役割分担や協力を少しずつすることで、解消することができます。

Q 3 コロナ対策をしながらの団活動はどのようにしたらよいか。
(練習での感染症対策、コロナ禍でのレクリエーション活動や野外活動)

A3

- ・各競技団体が作成している感染防止ガイドラインに沿って活動する。
(大会用、練習用、講習会用、その他)

- ・練習に制約を受ける中、活動目標も今までの団全体目標だけでなく、個人目標も立て、自らの意思で努力するよう指導していく。

- ①量より質の指導法の工夫(短い時間や体験の中で)や指導者のスキルアップ

- ②個人のレベルアップ法(弱点の強化、発想の転換、自己努力法の開発等)

- ③ACP(コロナ感染対策仕様)や運動遊びなどを使って体力増進やコミュニケーションの強化

- ④全身運動だけでなく、頭を使った学習(見る、聞く)も取り入れる

- ⑤試合中心の活動から少し離れて、日頃試合にでられない団員たちの活動の場を作ってあげる

Q 4 少年団活動や指導法などを団内での統一をどのようにしたらよいか。
(低学年への指導法、コロナ禍でコミュニケーションをとる場が減ってきている)

A4

<少年団活動の運営について>

- ・代表指導者を中心に少年団の基本理念を確認し、団目標の共通理解を図る。単位団の方針についても、代表・監督が表し、他の指導者と育成会で共通認識を持つことが大切である。
- ・少年団活動についてはスポーツ少年団の理念「スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる」「スポーツ少年団7つの活動」を基本に指導者と育成会で協議し年間活動を計画する。その際に、指導者・母集団で団規約に基づいた活動(年間計画・学期別計画書等)になっているか、定期的に話し合いをし、全員が理解・協力できる、参加(発言)できる環境づくりをする。
- ・4月当初(入団時)に年間の活動計画や基本方針を育成母集団と指導者が共通理解する。
- ・体験活動や体力テスト、コミュニケーションを取る機会など作る。
- ・学校や地域活動で存在価値を示すためにもボランティア活動や様々な行事等にも積極的に参加する。
- ・リーダーの育成と活動の場を作る。その場として、レクリエーションを用いる。レクリエーションは、運動遊びだけでなく、脳トレや文化活動、クラフト、学習活動があり、コロナ渦の中感染症対策をしながら、学ぶ機会を作る(リーダーの存在は重要)
- ・LINE等でコミュニケーションを図る

<指導について>

- ・準備運動、基本、技術内容等全体で共通するものは一緒に練習し、その後初心者、上級者でグループ分けする。
- ・低学年への指導については、リーダー及び上級生が時間配分し指導する。指導する上級者にとっても自分自身の勉強になる。また、低学年等には運動遊びやACPの活動を多く取り入れる。
- ・指導者の数が多ければ初心者、上級者でグループ分けをする。
- ・運営・専門技術の指導(高学年・低学年別)、補助スタッフ等役割分担できる指導体制の構築。

4 おわりに

昨年から新型コロナウイルス感染拡大の影響で「燃ゆる感動かごしま国体」を始め多くの大会や行事が中止になり指導者、保護者、団員も落胆していましたが東京2020オリンピック、パラリンピックが開催され、障害を乗り越え最後まで諦めない、集中力、夢と希望を持つアスリートの姿は感動でした。

鹿児島市スポーツ少年団指導者・母集団研修会も今年度は開催見送りになりました。しかし何かを残そうと指導部会の声が高まり市少年団の重点事項の基本方針、望ましい団活動、悩みや疑問等の調査を実施し書面による代替開催を決定しました。

報告書を見ると調査した設問11項目にアンケートや悩み、取り組み、成功事例等や解決方策が分類されています。ほとんどの団が指導者・育成会と共有し基本理念に則った活動を展開しています。毎年開催している鹿児島市スポーツ少年団「指導者・母集団研修会」の成果と指導者・育成会の少年団の理念・目的の共有、連携が実を結んだ結果です。

また、これまで議論されてきた勝利至上主義、やりすぎ、パワハラ等は今回の調査でも出ていません。一方生涯スポーツ研究公開への参加及び団員リーダー会入会推進については4割程度と少なく少年団活動において必要不可欠であり今後とも推進が必要です。

その他、全国的にも団員減少に歯止めがかかりません、どの団体も切実な悩みです。「親の考え」「クラブチームへの流れ」等様々な要因があるのも事実です。

回答や各団の取り組み成功事例でもありますが「スポーツ少年団は楽しい」「やってよかった」学校や地域との連携・行事参加、ポスター・チラシの配布他加入促進を図っていますのでぜひ参考にして下さい。

終わりに快く調査に協力していただきました指導者・育成会の方々に心から御礼と感謝を申し上げます。事務局（椎原・田實）の方々には代替開催の企画・発送・回答集計・校正・印刷製本等多大な労力をおかけし立派な報告書が完成しました。心から御礼申し上げます。

新学期も始まりましたが新型コロナウイルス感染拡大終息もまだまだ先を読めない状況です。坂村真民先生の「嵐は必ず去る」「火は必ず消える」「夜は必ず明ける」という詩があります。どんな状況でも心に力そして希望を胸に頑張っていけば道は必ず開けます。

今後各单位団で問題に出会ったとき「鹿児島市スポーツ少年団指導者・母集団研修会〈調査報告〉」を読んで頂き、参考となることを祈念し結びとします。

鹿児島市スポーツ少年団指導者協議会
会長 井出 俊郎

令和３年度 鹿児島市スポーツ少年団指導者・母集団研修会
＜調査報告＞

発行者 鹿児島市スポーツ少年団
鹿児島市スポーツ少年団指導者連絡協議会
事務局 〒８９２－０８１６ 鹿児島市山下町１５－１
公益財団法人鹿児島市スポーツ振興協会内
Tell ０９９－２４８－７７１８
Fax ０９９－２４８－７７３８